NPO法人
原発ゼロ市民共同 かわさき発電所 ニュースレター

第8号

でん太通信

den ta tu～sin

●発行 2015.4.15 NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■小田原城二の丸広場「おひさまマルシェ」に参加して

―原発ゼロ市民共同かわさき発電所の活動紹介―■

原発ゼロ市民共同かわさき発電所の設立当初からつながりを持っている小田原の「エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議」からのお声かけをいただき、３月１５日小田原城二の丸広場で行われた「小田原おひさまマルシェ」へ私達の活動紹介のブースを出展しました。

このイベントのテーマは「食とエネルギーの自給自足」で、楽しみながら地域で循環する経済のあり方を考えようと昨年始まりました。２回目となる今年は、「新しい標準を創る」をキャッチフレーズに開催されました。

当日は、約 100 店の物品販売や藻谷浩介さん鈴廣かまぼこの鈴木悌介さんをコメンテーターにしてのトークイベント･太陽光発電によるライブ演奏･電気自動車の試乗会や脱原発パレードなど盛りだくさんの企画で ２ 万人を超える皆さんが足をはこばれ長閑な １ 日を楽しんでいました。

かわさき発電所からは、これまでの活動をパネルにまとめて展示しました。ほかの地域で同じ活動をされている人達も訪れ熱心にご覧になり「何ワットの発電ができるのですか？」など質問も寄せられました。また、展示コーナーに設置した手動で発電するカーレーシングが子供たちの人気を集め順番待ちする子供たちの姿も見られました。

トークイベントには川岸理事長が登壇し、１号発電所が２月１日に通電をはじめたことを紹介し参加者から大きな拍手が送られました。藻谷浩介さんや鈴木悌介さんは、地域からこういう活動が広がっていく大切さが語られエールを贈られました。

このマルシェの場では関係者同士の新しいつながりや交流が行われ、4 月 19 日に中野島で行われる「おひさま春祭り」に神奈川事業本部から出店していた皆さんに声掛けし参加を呼びかけました。私は、この日販売されていた休耕地となっていたみかん山を復興して作ったという「おひるねみかんジュース」の味が忘れられず来年はまとめ買いしようと密かに考えています。

イベントチーム　木下和枝

■脱原発市民活動への激励メッセージ from German!■

3 月 29 日に日本科学者会議創立 50 周年記念行事の国際シンポジウム「移行：原子力から再生可能エネルギーへ」ポスターセッションに参加しました。ドイツから INES(The International Network of Engineers and Scientists for Global Responsibility) の方々をお招きし、神奈川県内の市民団体、企業、学生、研究者を対象に原発ゼロ市民共同かわさき発電所のあゆみ・活動を英語を交えながら紹介しました。資料が欲しいという要望が多く、私たちの活動への関心の高さを感じることができました。プレゼン後には長年にわたりドイツの反原発運動を牽引されてきた Reiner Brawn さんと横浜国立大学の学生さんの研究チームとディスカッションを行い、市民活動における大切なことについて話してもらいました。Brawn さんからは、「ドイツでも政府が脱原発を宣言するのに 30 年かかった。メルケル首相は保守派の物理学者であったが、国民の意識が変わったことで政府も脱原発に舵を取った。日本は４年前に福島原発事故を経験し、政府は原発の問題についてこれからは避けて通ることはできない。ドイツではチェルノブイリ事故後に科学者や研究者を支える団体を市民が作り、原発の危険性について徹底的に研究した。それを国民レベルに浸透させるのに長い月日がかかった。日本でも皆さんにぜひがんばってもらいたい。原発は国際的な共通問題だからこそ日本とドイツで手を取りあって原発をなくそう！」と激励のメッセージがありました。ドイツでの市民運動の実態等を聞けてとても貴重な経験となりました。

アート部　大久保優

■自己紹介コーナー■　No.8

今月号は昨年度まで唯一の「学生理事」であった塩田悠玄さんです。

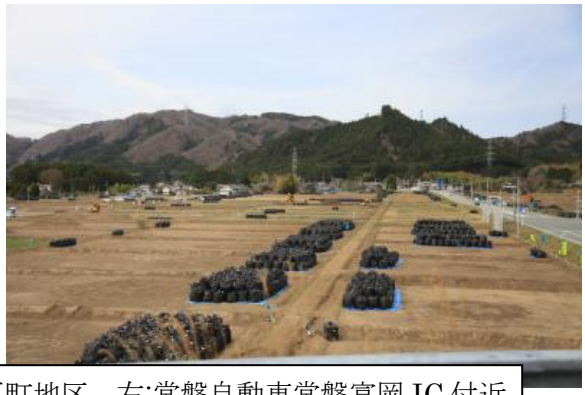
「人災」という現実に向き合い、本当の「明るい未来のエネルギー」を創る

大学入学を控えた 2011 年。あの日、私は自宅にいました。買い物から帰宅し、一息ついていたところ突如強い揺れを感じました。それは今まで体験したことのない規模の地震でした。自室の CD は床に放り出され、一階にいた祖母は家の柱にしがみついていました。私自身、かなり取り乱していました。「一体何がおこっているのか」。そう思ってテレビをつけると地震速報が流れていました。「津波に注意してください」とキャスターは告げていました。テレビ画面に表示された津波の高さ予想はみるみるうちに高くなっていきました。そして、やってきた津波が街を飲み込んでいく様を、私は見ました。

2011 年 3 月 11 日からの日々を「震災」とだけ表現するのは、正確でないように思います。なぜなら、今も続く被災の現実の中心には福島第一原発爆発という「人災」があるからです。にもかかわらず、福島第一原発事故の原因究明は未だなされていません。あの日、原発に何が起きたのか。本当のことを私たちはまだ何も知らされていないのです。しかし、私は真実を知りたい。知らなければならないと思うのです。原発がもたらした人災をもう二度と繰り返さないために。そして、私の子や孫が生きる未来では、原発など時代遅れの技術であり、再生可能エネルギーこそ最新の技術であって欲しいと思います。そんな未来が少しでも早く訪れるように、私は「原発ゼロ市民共同かわさき発電所」に参加しています。

「原子力明るい未来のエネルギー」ということばがかつてありました。でも、いまはそれが間違いであったことを誰もが知っています。そして正解は「太陽光明るい未来のエネルギー」だということも、ここ川崎に住まう多くの人々が気付き始めていると思います。

理事／アート部員　塩田悠玄



2015 年 4 月 9 日撮影　左:南相馬市小高・原町地区　右:常磐自動車常磐富岡 IC 付近

■　６月27日 - 28日の視察合宿参加者募集中　■

―世界一危険な浜岡原発を体感、世界遺産も観光―

来る６月27日(土)～28日(日)、静岡県で視察合宿を計画しました。当NPOでは初の原発の視察。

浜岡原発は中部電力唯一の原発で、立地上世界一危険とされています。2011年５月に国の要請により全機能停止しました。しかし、２基の廃炉を進めていますが、３基はフィルターベントの設置や防波堤を18mから22mにかさ上げするなど総工費費3000億円で改修工事を進めています。原発のＰＲ館・浜岡原子力資料館の職員の案内と反対派の意見を聞く場をもうけました。「1974 年、静岡浜岡原発に植えられたムラサキツユクサは、今、日本全国の原発を包囲し、私たちに、原発・放射能の恐ろしさを警告している」ムラサキツユクサ関係者全国交流会事務局発行『花の信号、ムラサキツユクサが訴える原発の危険性』に記されているように、初期の原発住民運動の象徴になった地でもあります。地元の方から反対運動の歴史の話を伺ったり、意見交換をしたりする場をたっぷりもうけました。また、展望台（海抜62m、高さ37m）から原発の全体像と市街中心地が一望できます。

しずおか未来エネルギー㈱の案内で清水エスパルスのホームグランド・清水日本平運動公園の太陽光発電所（50kw）を見学します。同社の総額 8,000 万円の中小規模分散型の太陽光発電事業計画の話も伺います。同社は「大きな資金をださなくとも参加できる、出資しやすいマイクロファンド」事業で、合計５ヶ所（設備容量224ｋｗ）の発電所で発電しています。

観光も楽しめます。日本新三景の一つ三保の松原を選びました。ここは2014年、ユネスコの世界文化遺産「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産に登録されました。清水港エスパレスドームプラザでは食事と買い物の時間を１時間15分もうけました。

ご参加をお待ちしています。　　（理事　高橋喜宣）

●集合場所　武蔵新城駅改札　● 集合時間　午前７時15分　●到着午後８時予定

●参加費　17,000円（20歳代まで10,000円）

●参加の申込は下記の要項に従い、メールでお願いいたします。

申込要項　①名前　②生年月日　③連絡先（携帯・メール）

田中哲男　tanaka-teyuo@hotmail.co.jp

■NPO法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/

フェイスブック

https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden

TEL　090-7948-6189(川岸)

【編集後記】今回は選挙の関係で編集代理を務めさせていただきました。　一歩一歩前に進んでいくには、多くの人とのつながりや想いの共有が大きな力となることをあらためて実感したそれぞれのイベント。選挙も一段落した川崎から。まずは２号機建設から一歩を踏み出し、今年度も力強く前に進んでいければと思います。（イベントチーム　小川杏子）